



つかのまの夢
つかのまの幸せ
永遠の愛

カミーラ

マリア・ルイサ・ベンベルグ監督作品

19世紀半ば

政争に揺れるアルゼンチンで
美しくも果敢に生きた女性 カミーラ。

マリア・ルイサ・ベンベルグ監督が
心をこめて描き上げた秀作!

岩波ホール上映作品 ・ 国名小劇 関西初単館ロードショー

第2回東京国際映画祭国際女性映画週間参加作品
1984年カルロヴィ・ヴァリ国際映画祭最優秀女優賞受賞
1984年新ラテンアメリカ国際映画祭最優秀女優賞受賞



●スズー・ペコラーロ イマノール・アリアス エクトル・アルテリオ ●製作総指揮:リタ・スタンティク
●監督:マリア・ルイサ・ベンベルグ ●脚本:マリア・ルイサ・ベンベルグ ベーダ・ドカン・ホ・フェイ
ホー ホアン・バウティスタ・スタグナロー ●撮影:フェルナンド・アリバス ●音楽:ルイス・マリア・セ
ーラ ●美術:ミゲル・ロドリゲス ●配給:岩波ホール ●提供:エキア・ド・シネマ



カミラ

マリア・ルイサ・ベンベルグ監督作品
アルゼンチン・スペイン合作映画
1984年・カラー作品

■かいせつ

「カミラ」は、ラテンアメリカ映画の存在を最初に世界に知らしめた作品である。19世紀半ばのブエノスアイレス。上流家庭の令嬢カミラと、イエズス会の神父が恋におちた。権力と教会は自由のシンボルである彼らの愛を認めず、人びとの同情と怒りを集めながらふたたびは処刑されていく。

カミラの悲劇は、血の独裁といわれたホアン・マヌエル・デ・ロサスの政権下にあった実話である。パンパのジュリエットと呼ばれ、大衆にもっとも愛されたこの物語は、1912年に一度映画化されたが、それ以降は政府によって製作が禁止されていた。無許可で撮影を開始し、83年のアルフォンシン大統領による民主政権の到来をうまくとらえたマリア・ルイサ・ベンベルグ監督は、多くのアルゼンチン映画人の長年の夢を実現させたといえよう。

58歳で監督デビュー、女性運動家としても名高いベンベルグ監督は、いかなる政治的権力も個人の生活を侵害することはできない、カミラは自分の良心によってのみ行動し、責任をとったのです、と語る。それまで自らは、ヨーロッパ人と考えていたアルゼンチン人は、フォークランド紛争以降、ラテンアメリカ民族としてのアイデンティティーにめざめた。その誇りが「カミラ」に圧倒的なヒットをもたらせた。映画が公開されて以来、ブエノスアイレスでは毎日、5〜6人の女兒にカミラの名がつけられたほどである。

「カミラ」は典型的メロ・ドラマであり、いまラテンアメリカがおかれている状況を力強く映し出した作品である。主演のスー・ペコラーロは、カルロヴィ・ヴァリ国際映画祭と、ハバナの新ラテンアメリカ映画祭で最優秀女優賞を獲得した。

■あらすじ

1847年、統一派と連邦派が対立するブエノスアイレスで、オゴルマン家はカトリック社会の中心的存在だった。当主はひとり息子を修道士にし、娘たちをきびしくしつけて一家に君臨していた。だが、年ごろになった

カミラは、世間の秩序にしたがって早く結婚させようという父の目を盗み、詩や小説を読みふけては想像の世界にひたる。

そんなとき、新任の若い神父ラディスラオ・グティエーレスと出会い、ふたりはひと目で惹かれあつた。が、グティエーレスは神に仕える身、この恋が祝福されるはずがない。カミラを避け、欲望と闘い、罪悪感に打ちひしがれるグティエーレスの毎日がつづいた。

ある日、統一派と日された男が、連邦派から見せしめの処刑をうけた。グティエーレスは暴力を否定し、分裂しては国家は存続できない」とミサの説教で怒りと悲しみをぶつける。政府の意向をなによりおそれる教会内部は彼を糾弾したが、カミラは彼の勇気を尊敬し、ますます想いをつのらせた。

やがて愛する祖母の死をきっかけに、カミラとグティエーレスは駆け落ちした。ブエノスアイレスを遠く離れた小さな町で、ふたりは名前を変え、子どもたちに読み書きを教えた。感謝と友情で接してくれる人々とともに、ふたりのおだやかで幸せな日がすぎていった……。

(上映時間・1時間45分)



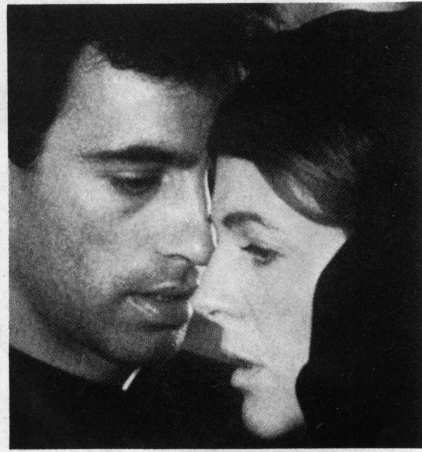
●スタッフ●

監督：マリア・ルイサ・ベンベルグ
製作総指揮：リタ・スタンティク
脚本：マリア・ルイサ・ベンベルグ
ベラ・ドカンボ・フェイホー
ホアン・パウティスタ・スタグナーロ

撮影：フェルナンド・アリバス
音楽：ルイス・マリア・セーラ
美術：ミゲール・ロドリゲス

●キャスト●

カミラ・オゴルマン……………スー・ペコラーロ
ラディスラオ・グティエーレス神父……………イマノール・アリアス
アドルフォ・オゴルマン(カミラの父)……………エクトル・アルテリオ
ホアキーナ・オゴルマン夫人……………エレナ・タシスト
フロロンド・現下……………カルロス・ムーニョス
ソート司令官……………エクトル・ベジュグリーニ
エドゥアルド・オゴルマン……………クラウド・ガジャルドウ
ヘア・シネマトグラフィカ・プロ・インバラ製作
配給：岩波ホール
提供：エキブ・ド・シネマ



優待割引券

■本券ご持参の方は、有効期間、(大人1,600円を)1,400円に割引。
■有効期間
'94年8月6日～26日
(封切映画の料金は都合にお断り)
(変更する場合がございます)

8月6日(土) → 26日(金) 公開
特別鑑賞券発売

一般 1,300円 <当日 大人1,600円>
学生 1,400円

名作単館ロードショー ★ 連日オールナイト ★

日本橋一丁目交差点北東角・北陸銀行東隣り

国名小劇
にはんいちビル B1 ☎213-9229

●上映途中のご入場は出来るだけご遠慮下さい

昼の部	1	2	3	4	5
	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00
夜の部	6	7	8	9	10
	20:00	22:00	24:00	2:00	4:00